

## 開隆堂の造形遊び



石賀直之

東京造形大学 教授

造形遊びは新しい学習指導要領でもその重要性が改めて強調されていますが、学校現場において授業としてどのように展開していけばよいのかわからないとよく耳にします。特に高学年の造形遊びはその解釈の難解さから苦手意識をもっている先生方が多くいらっしゃいます。このような現状を踏まえ、私たちはこれまでの造形遊び題材を徹底的に見直しました。開隆堂は低学年から高学年まで子どもたちの発達に即しつつ子どもたち自身が楽しさを実感しながら学習できる新規題材を数多く提案いたします。

### 低学年：幼稚園・保育園の造形経験を元にした題材の提案

幼小連携は今回の学習指導要領でも重要事項として位置付けられています。造形遊びは幼稚園・保育園の表現領域と深い関係があり、その関連を明確にすることが望まれます。低学年の造形遊びは小学校と幼稚園・保育園両方の指導経験がある著者が執筆しており、幼児教育とのつながりをより意識した題材になっています。幼稚園・保育園で扱った経験のある材料を元に、子どもの発達に即して考え抜かれた活動テーマを設定しています。

### 中学年：友だちとのコミュニケーションを重視した新規題材の提案

中学年の造形遊びでは友だちとの関わりが重要です。開隆堂の造形遊びは現代に生きる子どもたちの日常的な興味関心を徹底的にリサーチし、子どもたちが共有しやすい材料と

場所の設定を考えました。低学年の造形遊びを系統的に考え、さらに発展させた内容になっています。さまざまな地域の特性に合わせて取り組むことができる新しい題材を提案しています。

### 高学年：社会との関わりを重視した新規題材の提案

学習指導要領では高学年の造形遊びにおいて環境との関わりが強く求められていますが、その解釈は多岐にわたっています。その結果多くの先生方が実践していく中で難しさを感じています。なにより子どもたち自身が何をどのように表現していけばよいのか理解できない状況が多くみられ、造形遊びのもつ本来のよさや楽しさが伝わっていないのが現状です。このような課題を踏まえて新規題材を大幅に増やし、指導する先生方にも子どもたちにもやってみたいと感ずることができる題材を揃えました。特に環境との関わりの方では、高学年の子どもたちにみられる社会性の広がりに着目することにより、表現の方向性をより明確にすることができました。このことにより、先生方も子どもたちも高学年の造形遊びの実践を通して学習としての意義を十分に理解していただくことができるでしょう。

開隆堂の造形遊びはこれからの子どもたちに必要な学びを獲得することができる題材を多く設定しています。ぜひ子どもたちと一緒に体感していただきたいと考えています。

